

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：土木費 項：河川費 目：河川総務費

事業名 流域協働による効率的な河川清掃事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

県土整備部 河川課 維持係 電話番号：058-272-1111(内4636)

E-mail：c11652@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 30,000 千円 (前年度予算額： 30,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	30,000	0	0	0	0	0	30,000	0	0
要求額	30,000	0	0	0	0	0	30,000	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

流域全体を対象とした河川清掃事業に連帯して取り組むことにより、流域住民の河川環境及び水環境の保全に対する意識啓発を図る。

(2) 事業内容

・県内 5 流域において、NPO、地域住民等民間団体と行政が連携し、ゴミの集積しやすい場所や樹木が繁茂している場所を洗い出し、集中的に清掃・整備を行い、流域が一体となり、流域住民の河川環境及び水環境の保全に対する意識啓発を図るため、県管理河川の河道内樹木の伐採・除去や、不法投棄廃棄物等の回収を行う。

【河川課要求分】

県管理河川の河道内樹木の伐採・除去、不法投棄廃棄物等の回収。

(3) 県負担・補助率の考え方

県管理河川における維持管理経費であり、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

特になし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	30,000	河道内樹木の伐採・除去、不法投棄廃棄物回収費用
合計	30,000	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 ゴミの集積しやすい場所や樹木が繁茂している場所を集中的に清掃・整備することにより、上下流の地域住民が協働し、流域全体で清掃活動に連携して取り組むことができる環境を整える。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
環境整備実施河川数（第3期 目標：R4～R8）	31	34	24	20	20	5年間延べ 100	89%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> 流域清掃の団体と調整のうえ実施箇所を選定し、非出水期となる11月以降、5流域31河川36箇所で河道内樹木の伐採等を実施した。 NPO等だけでは対応できない、ゴミの集積しやすい場所や樹木が繁茂している場所を集中的に清掃・整備することにより、各流域の実情に応じた清掃活動モデルが構築され、自発的な環境保全活動が県全体に広がることが見込まれる。
	指標 目標：100河川 実績：31河川 達成率：31%
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> 流域清掃の団体と調整のうえ実施箇所を選定し、非出水期となる11月以降、5流域34河川60箇所で河道内樹木の伐採等を実施した。 NPO等だけでは対応できない、ゴミの集積しやすい場所や樹木が繁茂している場所を集中的に清掃・整備することにより、各流域の実情に応じた清掃活動モデルが構築され、自発的な環境保全活動が県全体に広がることが見込まれる。
	指標 目標：100河川 実績：65河川 達成率：65%
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> 流域清掃の団体と調整のうえ実施箇所を選定し、非出水期となる11月以降、5流域24河川38箇所で河道内樹木の伐採等を実施した。 NPO等だけでは対応できない、ゴミの集積しやすい場所や樹木が繁茂している場所を集中的に清掃・整備することにより、各流域の実情に応じた清掃活動モデルが構築され、自発的な環境保全活動が県全体に広がることが見込まれる。
	指標 目標：100河川 実績：24河川 達成率：89%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	岐阜県のアイデンティティーである清流を守り、活かし、次世代に伝えていく必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	環境整備対応河川数、整備箇所数が増加していくことで、流域全体を視野に入れた環境保全意識が高まり、自発的な環境保全活動が県全体に広がることが期待できる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	NPOや地元自治会からの要望等を聞きながら実施することで、流域の保全活動を行う団体の意識高揚にもつながっている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 今後、環境整備対応河川数を増加していくにあたり、集中的に清掃・整備を行わなければならない箇所数の増大が見込まれる。 流域においても、生育の早い外来植物の増加が懸念される。	
--	--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 効率的な樹木の伐採方法により、限られた予算内でできる限り効率的な清掃・整備方法を検討する必要がある。	
---	--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	ぎふ・リバー・サポーター事業 <div style="text-align: right;">【河川課】</div>
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	・清掃活動を行うための環境整備をすることで、河川清掃団体数の増加が期待できる。